

## 2010年第4四半期の純利益は112億ドルと公表

2011年2月24日（ニューヨーク発）：AIGは、2010年第4四半期の純利益が112億ドル、2010年通年では78億ドルになったと公表しました。1株当たり希薄化後利益は、第4四半期が16.60ドル、通年が11.60ドルになりました。これに対して、2010年第3四半期は18.53ドルの損失、2009年第4四半期は65.51ドルの損失、2009年通年は90.48ドルの損失でした。

2010年第4四半期の業績の要因となったのは、既に公表済みのチャータイスの支払準備金強化のための正味費用42億ドルと、主にAIAの新規株式公開による収入や、非継続事業に含まれるALICOの売却益41億ドルなどの事業売却益176億ドルです。AIGに帰属する税引き後営業損失は、第4四半期が22億ドル、通年が8.98億ドルとなりました。

AIG社長兼CEOのロバート・H・ベンモシエは以下のように述べました。「当四半期には事業再編に関連するいくつかの重要な目標を達成しました。引き続き、保険事業などの継続事業での長期的な成長と価値を高めることに重点を置いています。2010年、AIGは事業の成長、そして最終的には米国納税者への完済に向けて再編を進めたと言えるでしょう。納税者の皆さんに大変感謝しています。2010年1月以降、この支援からの脱却に向けて大きく進展しています。」

「チャータイスでは、料率水準を維持し、正味収入保険料は引き続き堅調でした。サンアメリカ・ファイナンシャル・グループでは、収益性は引き続き底堅く、運用収益は好調でした。サンアメリカにおける新たな事業の推進、契約の継続率の向上、販売ネットワークの活性化などが企業価値の回復につながっています。インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション（ILFC）では航空機とバランスシートをうまく管理できており、ユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション（UGC）では第一抵当権付保険契約の延滞件数が減少しました。」

「第4四半期の業績は、チャータイスの支払準備金に関する包括的なレビューを反映しています。2月初めに開示したように、主にアスベスト、労働者災害補償保険などを中心とするAIG固有のロス・トレンド、また業界全体での新興のロス・トレンドに対応する支払準備金を増強しました。支払準備金のレビューは複数の年度の損失見積もりを更新したものであり、アスベストを除くと支払準備金増強の約50%は、2006年から2009年の最近の事故年度に関するものです。チャータイスは米国市場において法人向け保険を提供する他のいかなる競合保険会社よりも多くの法定剰余金を有しています。」

ベンモシエ社長兼CEOは以下のように締めくくりました。「2011年には事業再編を終え、AIGはすでに力のある国内外の事業の成長、リスクおよび資金の管理、戦略的資産運用、そして組織全体でのコスト削減に重点を置きます。」

### 第4四半期のハイライト

- チャータイスの2010年第4四半期の営業損失は、前年同期が18億ドルであったのに対して、支払準備金強化の費用42億ドル（正味4.35億ドルの割引連動および損失連

動型保険の保険料調整後の金額)を反映して40億ドルとなりました。この費用は、チャーターが2010年12月31日時点で保有していた支払準備金合計681億ドルの6.2%に相当します。支払準備金強化の費用の約80%が、アスベスト関連、エクセス賠償責任保険、エクセス労働者災害補償保険およびプライマリー労働者災害補償保険の4つのロングテール事業に関連するものでした。第4四半期の正味収入保険料は、富士火災海上保険株式会社(富士火災)を連結対象としたことを反映して、9.4%増加しました。富士火災を除くと、世界全体での正味収入保険料は3.3%減少しました。これは、厳しい経済環境により、ペイロールや物資輸送などの料率のエクスポージャーに影響が及んだことや、激しい競争下にある損害保険市場の状況によるものです。

- サンアメリカ・ファイナンシャル・グループ(サンアメリカ)の2010年第4四半期の営業利益は、前年同期比4,300万ドル減少して10億ドルとなりました。収入保険料、預かり資産、その他の収入は、前年同期比6%減の49億ドルとなりましたが、これは主に、2010年には低金利環境により、個人定額年金の販売が減少したためです。ただし、第4四半期の個人定額年金の販売は、前期比21%増加しました。
- 2010年第4四半期、金融サービス事業部門の営業損益は、前年同期の4.68億ドルの利益に対して、正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)調整前で3.26億ドルの損失となりました。これは主に、インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション(ILFC)における、一部航空機の減損費用7.42億ドルによるものです。キャピタル・マーケットの営業利益は、リスク離れが進行し続けたことから、前年同期の1.54億ドルから増加して2.92億ドルとなりました。
- その他の事業では、ダイレクト・インベストメント事業で、投資不動産の減損損失の大幅な縮小を反映して4.7億ドルの営業利益を計上しました。またユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション(UGC)の営業利益は1.54億ドルとなりました。これは、市場環境の改善が継続したこと、第一抵当権付商品の新規に報告された延滞件数の減少、請求および請求調整費用の減少および一部契約の転換などにより、前年の動向が良好であったためです。
- AIGはALICOを162億ドル(現金72億ドルを含む)で売却し、新規株式公開で、AIA株式の67%をおよそ205億ドルで売却しました。これらの取引による正味現金収入は、ニューヨーク連邦準備銀行(FRBNY)与信枠の返済に充てられました。AIGは、これらの取引で155億ドルの利益(税引き後)を計上しました。
- AIGは、社債発行、偶発的流動性と信枠の確保、新規銀行与信枠の確保によって、新たに民間から55億ドルを超える資金を調達しました。
- 2011年1月14日、AIGは資本再構成化を完了しました。この内容は、AIAおよびALICOの取引による収入の一部を用いてのFRBNY与信枠の完済、AIAならびにALICOを保有する特別目的会社(SPV)の政府持分の一部返済、米国財務省ならびにAIGクレジット・ファシリティ・トラストが保有する優先株式のAIG普通株式との交換です。
- AIGは第4四半期に前払い委託資産の償却11億ドルを計上しました。これには、FRBNY与信枠の返済と利用可能残額の削減47億ドルによる、前倒し償却費用7.05億ドルが含まれます。AIGは2011年第1四半期に、負債償還による正味税引き前費用33億ドルを計上する見込みです。これは主に、FRBNY与信枠の全額返済および終了に関連する、残りの前払い委託資産の前倒し償却によるものです。

- AIG は当四半期に、主に ALICO ならびに AIA に関連する利益や、日本の大手町ビルの売却により、タックス・エクスペンス 48 億ドルを計上しました。
- 2010 年 12 月 31 日現在のトータル・エクイティは、2009 年 12 月 31 日の 981 億ドルに対して 151 億ドル増の 1,132 億ドルに拡大しました。

#### 税引き後営業利益（損失）

第 4 四半期に AIG は、重要な子会社売却や事業再編に関連する活動を踏まえて、税引き後営業利益（損失）の定義を見直しました（以前の修正純利益）。財務諸表を利用される方々にとって最も意味のある形で財務情報を表示、検討するために、定義を見直したものです。AIG の税引き後営業利益（損失）の定義は、非継続事業の会計処理を行う要件を満たしていない事業売却による利益（損失）、FRBNY 前払い委託資産の償却、事業売却関連の活動から生じたのれん代減損費用、サンアメリカの正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）に関連する繰延保険獲得費用（DAC）による相殺、そして繰延税金評価引当金の費用および減算を除くよう修正されました。

2008 年から AIG に影響を及ぼしてきたきわめて特殊な事象による歪んだ特異的な影響を除くことで、AIG は、税引き後営業利益（損失）の修正により、継続事業の業績とその事業の基本的な収益性を浮き彫りにすることで、事業の営業成績をより正しく評価し、より良く把握できると考えています。さらに、DAC による相殺の調整は、生命保険業界の非 GAAP 型の財務数値では一般的な調整であり、AIG がサンアメリカの営業成績をどう評価しているかを示す指標として優れています。GAAP に従った、第 4 四半期の AIG に帰属する純利益（損失）の税引き後営業利益（損失）への調整は、以下のとおりです。

#### 第 4 四半期業績

（単位：百万米ドル、ただし 1 株当たりの情報を除く）

	2010 年	2009 年	希薄化後 1 株当たり <sup>(1)</sup>	
			2010 年	2009 年
AIG に帰属する純利益（損失）	\$11,176	\$(8,873)	\$16.60	\$(65.51)
<b>税引き後営業利益（損失）算出のために、損失を加えて利益を控除（税引き後）：</b>				
正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）	317	(488)		
正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）に関連するサンアメリカの DAC による相殺	(152)	(34)		
事業売却の純利益（損失） <sup>(2)</sup>	13,506	(335)		
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの利益	52	181		
FRBNY の償却費合計	(708)	(3,830)		
事業売却の純利益	259	298		
繰延税金評価引当金 <sup>(3)</sup>	(1,902)	(2,376)		
非継続事業の純利益（損失）、税引き後 <sup>(4)</sup>	2,018	(952)		
<b>AIG に帰属する税引き後営業利益（損失）</b>	<b>\$(2,214)</b>	<b>\$(1,337)</b>	<b>\$(15.99)</b>	<b>\$(9.87)</b>

(1) 純利益を計上した期間においてシリーズCの優先株主への純利益（損失）帰属後の普通株主に帰属する純利益（損失）に基づき算出。

(2) 主にAIAの新規株式公開における株式売却益。

(3) 非継続事業に含まれる税金評価引当金を除く。

(4) 非継続事業とは、ALICO、ナンシャン、AIGスター、AIGエジソン、AGFを指す。

## 2010年通期業績

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	2010年	2009年	希薄化後1株当たり <sup>(1)</sup>	
			2010年	2009年
AIGに帰属する純利益(損失)	\$7,786	\$(10,949)	\$11.60	\$(90.48)
<b>税引き後営業利益(損失)算出のために、損失を加えて利益を控除(税引き後):</b>				
正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)	(860)	(4,082)		
正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)に関連するサン アメリカのDACによる相殺	(55)	70		
事業売却の純利益(損失) <sup>(2)</sup>	13,527	(1,263)		
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの利益	(27)	1,114		
FRBNYの償却費合計	(2,255)	(5,433)		
事業売却の純利益	1,657	1,484		
繰延税金評価引当金 <sup>(3)</sup>	(1,517)	(2,227)		
のれん代減損	-	(264)		
バーゲン・パーチェス・ゲイン	332	-		
非継続事業の純利益(損失)、税引き後 <sup>(4)</sup>	(2,118)	433		
<b>AIGに帰属する税引き後営業利益(損失)</b>	<b>\$(898)</b>	<b>\$(781)</b>	<b>\$(6.57)</b>	<b>\$(15.35)</b>

- (1) 純利益を計上した期間においてシリーズCの優先株主への純利益(損失)帰属後の普通株主に帰属する純利益(損失)に基づき算出。  
(2) 主にALAの新規株式公開における株式売却益。  
(3) 非継続事業に含まれる税金評価引当金を除く。  
(4) 非継続事業とは、ALICO、ナンシャン、AIGスター、AIGエジソン、AGFを指す。

### チャーティス

チャーティスの2010年第4四半期の営業損失は、前年同期が18億ドルであったのに対し、40億ドルとなりました。この要因となったのは、42億ドルの割引連動および損失連動型保険の保険料調整を控除後の保険給付支払準備金の増加です。準備金増強を除くと、2010年第4四半期の営業利益は前年同期と比べて、ほぼ横ばいでした。この準備金増強を一部相殺したのは、パートナーシップからの投資利益の増加による3.46億ドルの正味投資利益の改善です。2010年第4四半期の世界全体での正味収入保険料は、前年同期比で9.4%増加し、76億ドルとなりました。富士火災を除くと、世界全体での正味収入保険料は3.3%減少しました。これは、厳しい経済環境により、ペイロールや物資輸送などの料率のエクスポージャーに影響が及んだことや、激しい競争下にある損害保険市場の状況によるものです。この数年間、チャーティスは戦略的に、法人向け保険の資本集約的なクラスの引受けを減らし、法人、個人を対象とする専門的な契約など利益率が高く、変動が小さいセグメントの引受けを増やそうとしてきました。また市場の料率の確定が困難な分野における料率規律を継続しています。

コンバインド・レシオは、前年同期が132.5であったのに対して、支払準備金強化による49.2ポイントを含め、2010年第4四半期は160.5となりました。2010保険事故年度通年のコンバインド・レシオは、異常災害損失を除くと、前年同期が99.3であったのに対して、100.3となりました。

## サンアメリカ・ファイナンシャル・グループ

サンアメリカの2010年第4四半期の営業利益は、前年同期の11億ドルに対して、10億ドルとなりました。

2010年12月31日現在の運用資産は、前年同期の2,310億ドルから8%増加して、2,485億ドルとなりました。前年同期に評価損を計上したのに対して、2010年末現在の未実現評価益は33億ドルでした。

収入保険料、預かり資産、その他の収入は、前年同期比6%減の計49億ドルとなりましたが、これは主に、2010年の低金利環境による個人定額年金の販売減少によるものでした。ただし、第4四半期の個人定額年金の販売は、前期比21%増加しました。個人変額年金の販売は急速に回復し、前年同期比164%増加しました。これは、競争力のある商品の拡充、多数の主要ブローカー/ディーラー事業体による販売回復、およびホールセール事業体の生産性向上によるものです。生命保険販売は、前年同期比19%増加しました。これは、独立代理店との関係を修復し、キャリア・エージェントの生産性を向上させるための努力が結果をもたらしているためです。全体として、解約率は通常に近い水準に戻っています。

## 金融サービス事業

2010年第4四半期、金融サービス事業部門は、前年同期の4.68億ドルの営業利益に対して、3.26億ドルを計上しました。

ILFCは、前年同期が3.44億ドルの営業利益を計上したのに対して、2010年第4四半期は6.06億ドルの営業損失を計上しました。2010年第4四半期に、航空機メーカー1社が新たなエンジン・オプションを発表し、燃費と最大積載量の大幅な向上が見込まれます。ILFC経営陣は、今回の発表で一部の航空機に対する需要が少なくなる可能性があるかと予想し、そのため、リース機の減損損失6.02億ドルを計上しました。さらにILFCは、一部の航空機について資産減損損失8,300万ドルを計上しました。これは、経営陣が将来これらの航空機のリース料の下落を予想していること、また航空機の売却に関連する700万ドル、今後の航空機売却の可能性に関連する5,000万ドルの資産減損損失を反映しています。さらに、ILFCでは、借入金利全体の上昇によって支払利息が増加しました。また今後の賠償の増加や、整備引当金を計上しているリース航空機数の増加を反映して整備引当金が増加しました。2010年12月31日現在、ILFCは2011年から2019年に受け渡し可能な、新たな115機の航空機の購入を確約しており、購入価格合計は135億ドルに達すると見積っています。

キャピタル・マーケットは、ポートフォリオの段階的縮小に取り組んでおり、2010年第4四半期の営業利益は、前年同期の1.54億ドルに対して、2.92億ドルとなりました。このような好業績の要因となったのは、主にクレジット・スプレッドの変動が、デリバティブの評価額に及ぼした正味の効果です。キャピタル・マーケットは、スーパー・シニア・クレジット・デフォルト・スワップ・ポートフォリオに関連して、2010年第4四半期に1.66億ドル、2009年第4四半期に2.75億ドルの未実現時価評価益を計上しました。

AIGFPのポートフォリオの清算状況:

- AIGFPのデリバティブ・ポートフォリオの想定元本は、2009年12月31日時点の9,407億ドルから62%減少し、2010年12月31日時点では3,528億ドルとなりました。これには会社間デリバティブ115億ドル、スーパー・シニア・クレジット・デフォルト・スワップ599億ドルが含まれています。
- トレードポジションは2009年12月31日時点の約16,100から約12,200(76%)減少し、2010年12月31日時点では約3,900となりました。これには、AIGのダイレクト・インベストメント事業に管理が移管された非デリバティブ資産・負債のポジション約4,800は含まれていません。

- AIGFP ポートフォリオならびにダイレクト・インベストメント事業に関連して提供されている正味担保金額は、2009年12月31日時点の159億ドルから減少し、2010年12月31日時点では108億ドルとなりました。

## その他の事業

AIG 傘下の住宅ローン保証保険会社であるユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション (UGC) の営業損益は、前年同期の 2.41 億ドルの損失に対し、2010 年第 4 四半期は 1.54 億ドルの利益を計上しました。この業績回復は、市場環境の改善、第一抵当権付商品の新規に報告された延滞件数の減少、請求および請求調整費用の減少、および一部契約の転換などにより、前年の損害動向が良好であったためです。

UGC は料率設定およびリスク管理において、革新的なツールを用いて、住宅ローンのリスクを評価しています。また米国内で信用度が高く、ROE が高い第一抵当権付住宅ローンの保証に力を入れています。UGC はアジアでも国際的な存在感を保持していますが、第二抵当権付商品やプライベート学生ローンで新たなリスクを引受けは停止しています。

AIG のダイレクト・インベストメント事業の第 4 四半期の正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) 調整前の営業損益は、前年同期の 1,800 万ドルの損失に対して、4.7 億ドルの利益となりました。これは主に、投資不動産の減損損失が大幅に縮小したため、経営陣が子会社売却計画を進める中、投資ポートフォリオが安定したことを示しています。これは、AIG のクレジット・スプレッドの縮小と、公正価値の選択肢により計上される負債評価額の影響で、非デリバティブ資産・負債に正味の時価評価損が生じたことにより、一部相殺されました。

FRBNY 与信枠に関する支払利息ならびに償却は、2010 年第 4 四半期に 12 億ドルとなりましたが、これは前払い委託資産の償却額が前年同期と比べて減少したことを反映していません。

金融受け皿会社 (Maiden Lane III) における AIG の持ち分の公正価値は、2009 年第 4 四半期の 1.96 億ドルの上昇に対して、2010 年第 4 四半期には 3.82 億ドルの上昇となりました。

未配分の本部経費は、前年同期の 6.02 億ドルから減少して 1.81 億ドルとなりましたが、これは主に訴訟引当金およびその他営業費用の減少を反映したものです。

## AIG の安定化ならびに債務返済に向けての進捗状況

2008 年 9 月より、AIG は主要事業の価値を維持・向上させ、秩序ある資産売却計画を実行し、将来的な事業価値を認識しました。AIG が完了、着手した計画は以下のとおりです。

- **資本再構成化計画**—2011年1月14日、AIGは本プレスリリースで前述のとおりの一連の資本再構成化計画を完了しました。AIGは2011年第1四半期に33億ドルの費用計上を見込んでいますが、これは主に前払い委託資産の前倒し償却によるものです。
- **ナンシャン**—2011年1月12日、AIGは南山人寿保険(「ナンシャン」)の97.57%の株式を、台湾を拠点とするルーエン・チェン・インベストメント・ホールディングに現金21.6億ドルで売却することで合意しました。
- **AIGならびにチャーティスの与信枠等**—2010年12月23日、AIGは364日と3年間の期間の銀行与信枠をそれぞれ同額にて合計30億ドル確保したこと、またチャーティスが364日間有効な13億ドルの信用状枠を確保したことを発表しました。

- **ILFCの資金調達**—2010年12月7日、ILFCは優先社債10億ドルを発行しました。また2011年1月31日、無担保で期間3年のリボルディング・クレジット・ファシリティ20億ドルを確保しました。
- **AIGの債券発行**—2010年11月30日、AIGは2008年夏以降初めて、優先社債20億ドルを発行しました。さらに2010年12月8日には、5億ドルの偶発的流動性と信枠を確保しました。
- **アメリカン・ジェネラル・ファイナンス (AGF)** —2010年11月30日、フォートレスがAIGからAGF持分の80%を取得しました。AIGは、AGF株式の20%を引き続き保有しています。
- **エクイティ・ユニットの交換**—2010年11月24日、AIGは下位劣後債37億ドルに相当するエクイティ・ユニット49,474,600個と引換えに、AIG普通株式4,881,667株と現金1.62億ドルを交付しました。
- **ALICOの売却**—2010年11月1日、ALICOのメットライフへの売却が完了しました。売却額はおよそ162億ドルでした（現金72億ドルと、その残額分のメットライフ株式）。
- **AIAの新規株式公開**—2010年10月29日、AIGは新規株式公開でAIA株80.8億株（67%）を約205億ドルで売却しました。
- **AIGスター生命ならびにAIGエジソン生命の売却合意**—2010年9月30日、AIGは、日本で生命保険事業を展開する子会社、AIGスター生命ならびにAIGエジソン生命を、米国プルデンシャル・ファイナンシャルに48億ドルで売却することで合意に達したことを発表しました。この内訳は、現金支払が42億ドル、第三者に対する負債の引受が6億ドルです。AIGは2011年2月1日に売却を完了しました。

#### カンファレンス・コール

AIGは、明日2011年2月25日午前8時（米東部時間）より、カンファレンス・コールを開催し、当四半期業績についてのレビューを行います。一般に公開され、ウェブキャスト（<http://www.aig.com>）でオンタイムに聞くことができ、終了後に再生することも可能です。

#####

AIGの補足財務情報は、ウェブサイト（<http://www.aig.com/>）の投資家向けセクションでご覧いただけます。

## 将来情報に関する警告的記述

カンファレンス・コール、決算報告、決算補足資料には、1995 年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測および見解が含まれている場合があります。これらの予測および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関する AIG の考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実で AIG が制御できないものです。これらの予測および見解は、米国財務省が保有する AIG 株式の売却時期、米国財務省が保有する優先持分の返済の時期および方法、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場に対する AIG のエクスポージャー、AIG の州債および地方債の発行体に対するクレジット・エクスポージャー、AIG のリスク管理戦略、従業員の維持とモチベーションの向上に関する能力、そして顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金に関する AIG の戦略などを考慮に入れることがあります。AIG の実際の業績ならびに財務状況が、これらの見解および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIG の実際の業績が、特定の見解や記述で示された予測から場合によっては大きく逸脱し得る要因には、格付け機関の動向、市場環境の変化、異常損害の発生、重要な法的手続き、地方債ポートフォリオなど AIG の投資ポートフォリオにおける集中、損害保険の引受けならびに引当金に関する判断、繰延税金資産の認識に関する判断、および 2010 年 12 月 31 日末の AIG のフォーム 10-K による四半期報告書の、パート II 項目 7(「経営陣による財務状況と業績の検討および分析」、パート I 項目 1A(「リスク要因」)などで取り上げられている事項などがあります。AIG は、書面また口頭にかかわらず、見解やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

## AIG について

AIG グループは世界の保険業界のリーダーであり、130 以上の国・地域でサービスを提供しています。AIG グループ各社は、世界最大級のネットワークを通して、個人・法人のお客様に損害保険を提供しています。このほか、米国内においては生命保険事業、リタイアメント・サービス事業も展開しています。持ち株会社 AIG, Inc.の株式はニューヨーク、アイルランド、東京の各証券取引所に上場されています。

#####



## 規定 G に関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースには、一部、非 GAAP 型の財務数値が含まれています。本リリース中の関連した表、および AIG 本社のウェブサイト(<http://www.aig.com/>)の投資家向け情報セクションでご覧いただける 2010 年第 4 四半期の補足財務情報には、規定 G に基づく、最も GAAP に類似した数値が示されています。

本プレスリリースでは、当社の業績を評価する上で財務情報を利用される投資家の方やその他の方々にとって最も意味があり最も透明性が高いと考えられる方法で業績を示しています。これらの表示方法の一部には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。GAAP に基づく表示に加え、場合によって、発生した損失について得られていない税法上の恩典による影響、事業売却の結果、非継続事業、FRBNY 委託資産の償却、一時的でない減損の認識、事業再編に関連する活動、シリーズ C、E、F 優先株の転換、実現キャピタル・ゲイン（ロス）からサンアメリカの DAC による相殺を除いたもの、パートナーシップからの利益、その他利益に対するプラス要因、要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動の影響、のれん代減損の影響、信用評価の調整、未実現評価益（評価損）、異常災害関連損失および前年の損害動向の影響、アスベスト関連の損失、外国為替レート、繰延税金評価引当金、富士火災のバーゲン・パーチェス・ゲインも示しています。

いずれの場合も、AIG はこれらの項目を除外することで、投資家の皆様が AIG の基本的な事業の業績をより良く把握できると考えています。非 GAAP 型の提示による情報を提供することは、投資家やアナリストの皆様にとって有益であり、GAAP 型の提示による情報よりも意味があると考えています。

投資利益（または損失）および実現キャピタル・ゲイン（ロス）を生み出すための収入保険料の投資が、生命保険・損害保険事業の中心となりますが、実現キャピタル・ゲイン（ロス）の算定は、保険引受けプロセスとは関係していません。さらに、GAAP に基づく会計方針に従った場合、未実現の一時的な価値の下落以外の結果から損失が生じてくる場合があります。このため、あらゆる特定の期間についての投資利益および実現キャピタル・ゲイン（ロス）は、四半期毎の事業結果を示すことにはなりません。

AIG は、これによって、財務諸表を利用される投資家の方々にとって最も意味がある方法で、財務情報を表示、検討できるものと考えています。事業利益（損失）、は、チャーティスの業績を報告するために用いています。営業利益（損失）は、正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）、関連 DAC および販売促進資産（SIA）の償却、のれん代減損費用の調整前のもので、サンアメリカ・ファイナンシャル・グループ（サンアメリカ）の業績を報告するために用いています。非継続事業の業績および、子会社売却の純利益（損失）は、これらの数値に含まれていません。AIG は、これらの数値によって、継続事業の業績とその基本的な収益性を浮き彫りにすることで、各事業の営業成績をより正しく評価し、より良く理解できると考えています。これらの数値を開示する場合、GAAP 型税引き前利益の調整を示します。

生命保険とリタイアメント・サービス事業の売上高（収入保険料、預かり資産およびその他の収入）には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。これには、生命保険収入保険料、年金契約およびミューチュアルファンドの預かり資産が含まれます。AIG は、保険業界において業績の標準的な測定基準であり、AIG の保険業界での競合他社との比較をより意味のあるものとするという理由から、この財務数値を用いています。

第 4 四半期に AIG は、重要な子会社売却や事業再編に関連する活動を踏まえて、税引き後営業利益（損失）の定義を見直しました（以前の修正純利益）。財務諸表を利用される方々にとって最も意味のある形で財務情報を表示、検討するために、定義を見直しました。AIG の税引き後営業利益（損失）の定義は、非継続事業の会計処理を行う要件を満たしていない事業売却による利益（損失）、FRBNY 前払い委託資産の償却、事業売却関連の活動から生じたのれん代減損費用、サンアメリカの正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）に関連する繰延保険獲得費用（DAC）による相殺、そして繰延税金評価引当金の費用および減算を除くよう修正されました。

2008 年から AIG に影響を及ぼしてきたきわめて特殊な事象による歪んだ特異的な影響を除くことで、AIG は、税引き後営業利益（損失）の修正により、継続事業の業績とその事業の基本的な収益性を浮き彫りにすることで、事業の営業成績をより正しく評価し、より良く把握できると考えています。さらに、DAC による相殺の調整は、生命保険業界の非 GAAP 型の財務数値では一般的な調整であり、AIG がサンアメリカの営業成績をどう評価しているかを示す指標として優れています。

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト\*

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	12月31日までの3ヶ月間			12月31日までの12ヶ月間		
	2010年	2009年(a)	増減(%)	2010年	2009年(a)	増減(%)
<b>チャーティスの保険事業：</b>						
正味収入保険料	\$ 7,578	\$ 6,929	9.4 %	\$ 31,612	\$ 30,653	3.1 %
正味既経過保険料	8,550	8,030	6.5	32,521	32,261	0.8
請求および請求調整費用	10,724	7,940	35.1	27,867	25,362	9.9
引受経費	3,001	2,696	11.3	10,114	9,497	6.5
事業利益 (損失)	(5,175)	(2,606)	-	(5,460)	(2,598)	-
正味投資利益	1,201	855	40.5	4,392	3,292	33.4
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)、バーゲン・パーチェス・ゲイン、不動産売却益の調整前利益	(3,974)	(1,751)	-	(1,068)	694	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (b)	(37)	152	-	(49)	(530)	-
バーゲン・パーチェス・ゲイン (c)	-	-	-	332	-	-
不動産売却益 (c)	669	-	-	669	-	-
<b>税引き前利益 (損失)</b>	<b>(3,342)</b>	<b>(1,599)</b>	<b>-</b>	<b>(116)</b>	<b>164</b>	<b>-</b>
損害率	125.4	98.9		85.7	78.6	
経費率	35.1	33.6		31.1	29.4	
コンバインド・レシオ	160.5	132.5		116.8	108.0	
<b>サンアメリカ・ファイナンシャル・グループの事業：</b>						
収入保険料およびその他の売上	1,332	1,279	4.1	5,230	5,327	(1.8)
GAAPによる収入に含まれない預かり資産およびその他の収入	3,611	3,996	(9.6)	13,856	13,388	3.5
収入保険料、預かり資産、その他の収入	4,943	5,275	(6.3)	19,086	18,715	2.0
正味投資利益	2,777	2,663	4.3	10,768	9,553	12.7
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) および関連償却の調整前利益	1,043	1,086	(4.0)	4,048	2,308	75.4
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) に関連する DAC、VOBA、SIA の償却 (ベネフィット)	(235)	(52)	-	(85)	108	-
のれん代	-	-	-	-	(81)	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (b)	491	(364)	-	(1,251)	(3,514)	-
<b>税引き前利益 (損失)</b>	<b>1,299</b>	<b>670</b>	<b>93.9</b>	<b>2,712</b>	<b>(1,179)</b>	<b>-</b>
<b>金融サービス事業：</b>						
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動および正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) を除く税引き前の営業利益 (損失)	(326)	468	-	(553)	1,907	-
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動 (b)	-	-	-	-	3	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (b)	(43)	6	-	(83)	96	-
<b>税引き前利益 (損失)</b>	<b>(369)</b>	<b>474</b>	<b>-</b>	<b>(636)</b>	<b>2,006</b>	<b>-</b>
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)、事業売却の純利益、および会社間連結・消去調整前のその他の項目	16,301	(7,010)	-	14,854	(14,373)	-
その他の正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (b)	757	264	-	856	(81)	-
会社間連結・消去調整 (b)(d)	(158)	(864)	-	266	(844)	-
<b>継続事業のタックス・エクスペンズ (ベネフィット) 調整前利益 (損失)</b>	<b>14,488</b>	<b>(8,065)</b>	<b>-</b>	<b>17,936</b>	<b>(14,307)</b>	<b>-</b>
タックス・エクスペンズ (ベネフィット)	4,815	21	-	5,859	(1,489)	-
<b>継続事業の純利益 (損失)</b>	<b>9,673</b>	<b>(8,086)</b>	<b>-</b>	<b>12,077</b>	<b>(12,818)</b>	<b>-</b>
<b>非継続事業の純利益 (損失)、税引き後</b>	<b>2,037</b>	<b>(924)</b>	<b>-</b>	<b>(2,064)</b>	<b>505</b>	<b>-</b>
<b>純利益 (損失)</b>	<b>11,710</b>	<b>(9,010)</b>	<b>-</b>	<b>10,013</b>	<b>(12,313)</b>	<b>-</b>
<b>控除：</b>						
<b>非支配的持ち分に帰属する継続事業の純利益 (損失)：</b>						
FRBNY が保有する非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先順位の高い、および優先順位の低い受益権	403	140	-	1,818	140	-
その他	112	(305)	-	355	(1,576)	-
<b>非支配的持ち分に帰属する継続事業の利益 (損失)</b>	<b>515</b>	<b>(165)</b>	<b>-</b>	<b>2,173</b>	<b>(1,436)</b>	<b>-</b>
非支配的持ち分に帰属する非継続事業の利益	19	28	(32.1)	54	72	(25.0)
非支配的持ち分に帰属する純利益 (損失)	534	(137)	-	2,227	(1,364)	-
<b>AIG に帰属する純利益 (損失)</b>	<b>11,176</b>	<b>(8,873)</b>	<b>-</b>	<b>7,786</b>	<b>(10,949)</b>	<b>-</b>
<b>AIG 普通株主に帰属する純利益 (損失)</b>	<b>\$ 2,297</b>	<b>\$ (8,874)</b>	<b>-</b>	<b>\$ 1,583</b>	<b>\$ (12,244)</b>	<b>-</b>

## 財務ハイライト (続き)

	12月31日までの3ヶ月間			12月31日までの12ヶ月間		
	2010年	2009年(a)	増減(%)	2010年	2009年(a)	増減(%)
<b>AIGに帰属する純利益 (損失)</b>	\$ 11,176	\$ (8,873)	- %	\$ 7,786	\$ (10,949)	- %
AIGに帰属する非継続事業の利益 (損失)、税引き後	2,018	(952)	-	(2,118)	433	-
事業売却の純利益 (損失)、税引き後	13,506	(335)	-	13,527	(1,263)	-
事業売却の純利益 税引き後	259	298	(13.1)	1,657	1,484	11.7
繰延税金資産評価引当金 (費用) / 減算	(1,902)	(2,376)	-	(1,517)	(2,227)	-
FRBNY 前払い委託資産償却 税引き後	(708)	(3,830)	-	(2,255)	(5,433)	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)、税引き後	317	(488)	-	(860)	(4,082)	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)に関連するサンアメリカのDACによる相殺	(152)	(34)	-	(55)	70	-
のれん代減損	-	-	-	-	(264)	-
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの利益 (損失)、税引き後	52	181	(71.3)	(27)	1,114	-
バーゲン・パーチェス・ゲイン	-	-	-	332	-	-
<b>AIGに帰属する税引き後営業利益 (損失)</b>	\$ (2,214)	\$ (1,337)	-	\$ (898)	\$ (781)	-
<b>普通株式1株当たり利益 (損失) - 希薄化後:</b>						
AIG 普通株主に帰属する純利益 (損失)	\$ 16.60	\$ (65.51)	-	\$ 11.60	\$ (90.48)	-
AIG 普通株主に帰属する調整後純損失	\$ (15.99)	\$ (9.87)	-	\$ (6.57)	\$ (15.35)	-
AIG株主資本の普通株式1株当たり帳簿価額 (e)				\$ 607.41	\$ 516.94	17.5
AIG株主資本の見積普通株式1株当たり帳簿価額 (f)				\$ 46.80	\$ 42.11	11.1
平均発行済み株式 - 希薄化後	138.4	135.4		136.6	135.3	

### 財務ハイライト特記事項

\* 規定Gに従った調整を含んでいます。

- 特定の勘定は、2010年度の表示に合わせるため2009年度の結果では再分類されています。
- ヘッジ会計処理を行う要件を満たしていない為替差損益を含むヘッジ取引からの利益 (損失) を含んでいます。
- 富士火災の追加取得に関連するバーゲン・パーチェス・ゲイン、および日本のオフィスビル売却にあたって計上した資産売却益を示します。
- 連結されている特定のAIGが管理しているパートナーシップ、プライベート・エクイティおよび不動産ファンドからの利益 (損失) を含んでいます。これらの利益 (損失) は、継続事業の利益 (損失) の構成要素ではない、非支配的持ち分に帰属する継続事業の純利益 (損失) の中で相殺されています。
- AIG株主資本合計を発行済み普通株式で割ったものを示しています。
- 資本再構成化を実施して算出した見積普通株式1株当たり帳簿価額を示します。